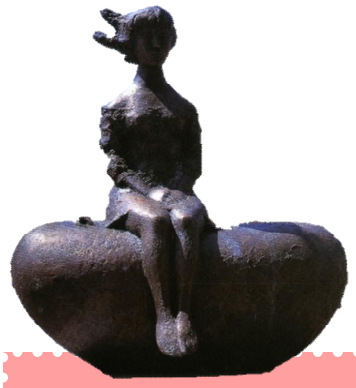
彫刻のあるまちかすかべ

昭和63年から平成元年にかけて、当時の竹下内閣による**「ふるさと創生事業」**として、全国の各市町村に対し、**1億円が交付**されました。その1億円を地域振興のためにどのように利用するか、市民や職員からアイディアを求めたところ、「芸術パーク・芸術モール事業」、「彫刻展示ストリートの建設」が最優秀作品に選ばれました。このアイディアを**「彫刻のあるまちづくり －アートアメニティ構想－」としてまとめ**、平成元年から彫刻の設置を開始しました。
街路等の整備が終わり、都市空間としての景観が形成された春日部駅東口周辺に、**ふるさと創生事業の財源で9体、一般財源で10体、その後、春日部駅西口側にも3体の彫刻**を設置し、現在、**社会教育課では、合計22体を管理**しています。

春日部駅東口周辺



長年、フクロウをモチーフにした作品を彫り続けた作者。黒御影石で作られたこれも、そのひとつ。
石の凹凸をあえてそのまま残すことで、フクロウの身体をリアルに表現しているのではないでしょうか。

「月に吠える」
作：手塚 登久夫

「あのね」 作：廣嶋 照道

糸電話で遊んだ遠い日のひとコマを捉え、おおらかで豊かな心が育つようにという願いを込めて作られた作品。

公園橋(西)

「記念撮影－風が－」
作：峯田 敏郎

突然の風で帽子が飛ばされ、髪がたなびく。そんな一瞬を切り取った、さわやかさを感じる作品。

コラム

実はこの作品には、2人以外に「ある生き物」が隠れています。
右側の女の子の右ポケットに注目！その生き物とは…**リス**。なぜリスがいるのかは実は分かっておりませんが、もしかしたら作者の思い出の1ページなのかもしれません。

若き詩人の姿を表現したこの作品。素材はコールテン鋼といい、時間が経つにつれ表面に錆が出てきます。それが保護膜となり、独特の風合いを醸し出します。

「詩想」
作：綿引 道郎

これから伸びて行く若いひとりの、飾り気のない、ふとした時にみせる美しさ、その煌きを表現した作品。女性の内に秘めたエネルギーも感じさせる。

「煌(こう)」
作：森田 やすこ

ぷらっとかすかべ

コラム

個性あふれる彫刻の数々も、長いものでは設置から30年以上が経過しております。
長年 雨風(酸性雨など)にさらされるだけでなく、排気ガスや鳥の糞、クモの巣などの影響を受け続けると、修理が大変になります。
特に銅像においては、保護膜が剥がれたまま放置すると、作品内部の酸化が進み、大変な被害を受けることが予想されます。

そこで、社会教育課が所管している22体の彫刻については、業務委託によるメンテナンスや、ボランティアによる清掃を年に2回実施しております。きれいな状態で、春日部の街並みに溶け込み、まちを行く皆さまに、文化的なゆとり とうるおいをお届けしています。

ヴァイオリンとチェロを持った二人。彼らの素晴らしい演奏に、そのハーモニーに耳を傾けてみてください。きっとあなたの心にゆとりと安らぎが訪れることと思います。

「響き」 作：吉本 豊

春日部駅